

全国数学教育学会第 33 回研究発表会 特別企画（全体会）
A 部会提案発表概要

提案発表者：植田 悦司（兵庫教育大学大学院生／兵庫教育大学附属小学校）
加藤 久恵（兵庫教育大学）

【題目】

「小学校教員の職能成長とアクションリサーチ：算数科の授業づくりに関連して」

【概要】

小学校の教員として算数科の授業づくりと授業研究に取り組んできた提案者（植田）が、現在は兵庫教育大学大学院に所属し、自身のこれまでの実践研究を踏まえて数学教育学研究を行っている。その「小学校教員としての職能成長」の過程を、アクションリサーチという視点から考え、報告したい。それに加えて、大学教員として関わってきた第二提案者（加藤）が、協同研究者の立場からみた提案者の研究の軌跡を報告したい。

提案発表者：井口 浩（上越教育大学大学院現職院生）
岩崎 浩（上越教育大学）

【題目】

「数学教育学研究に基づくアクションリサーチの事例的検討

- ：算数の授業改善、特に実践者の内省に数学教育学の視点はどのような役割を果たすか？
- ：実践者としての内省を数学教育学の研究結果へと変えるものは何か？」

【概要】

われわれは、平成 22 年 9 月～12 月までの約 4 ヶ月間、上越市内のある小学校の教室をフィールドとして算数の授業改善を目的とした「学校支援プロジェクト」に取り組んだ。「学校支援プロジェクト」とは、上越教育大学大学院教育実践高度化専攻における実習形態である。われわれがそこで取り組んだものは、現職院生、学卒院生、大学教員からなるチームによる数学教育学研究を基盤としたアクションリサーチとして特徴づけられるものであった。

本提案発表においては、かような実践者と研究者との協働による授業改善への取組みの中で、特に授業リフレクションにおいて議論となり、われわれの見方が変化したと思われる場面を事例として取り上げる。そして、現職院生（井口）からは、授業実践者の立場から算数の授業改善、特に実践者の内省に数学教育学の視点がどのような役割を果たしたかについて報告し、大学教員（岩崎）からは数学教育学研究者の立場から、かような実践者としての内省（算数の授業改善への気づき）を数学教育学の研究結果へと変えるものは何かについて、主に P. Cobb らのデザインリサーチの視座から検討を加える。